



13  
2946  
126





特 2946 126



本番の馬琴作の世評

世評 紺屋 形

此子林方蓋中極極能は世評正脱取務  
 以是負と名目傍極高仕更に更極極極  
 沙礼吉林方作老五師法職人透極極極  
 細味仕様極極極極極極極極極極極極  
 同心事方小方極極極極極極極極極極  
 乃高極極極極極極極極極極極極極極  
 此世風極極極極極極極極極極極極極



此の世評の  
 此の世評の  
 此の世評の

葛屋重之郎



寛政十三年

126

特  
2946  
126

馬琴作

世に語り  
世に語り  
世に語り  
世に語り

形 中

通油町  
葛十版

己未春

本堂の牌に書くと此の故は仕

山中林方並に攝媛能は此の元正院に移す

此の元正院に移す

此の元正院に移す

此の元正院に移す

此の元正院に移す

此の元正院に移す

此の元正院に移す

此の元正院に移す



此の元正院に移す

葛屋重之郎



寛政十三年

126

特  
13  
2946  
126



荒尾文庫

奉賀 乃 牌 口 幸 音 と 心 出 投 為 仕 也

山中林方 蓋 中 撮 塚 能 是 山 庄 正 院 正 務 守 持 以 此 為 松 丸 世



以 具 有 之 且 諸 聖 留 仕 莫 如 之 聖 所 難 為 仕 在 身 少 為 若 為  
涉 札 在 林 中 作 老 画 師 法 職 人 手 邊 所 以 之 若 為 諸 事  
細 味 仕 法 及 派 派 山 取 持 仕 為 未 元 日 多 無 類 大 安 賣 仕  
回 心 幸 方 山 幸 持 小 賣 見 世 也 少 之 為 全 板 仕 也  
乃 為 諸 事 中 用 仕 任 身 年 歲 皆 然 在 牌 中 為 傳 手 持  
皇 山 風 陸 未 成 出 塚 之 委 寄 光 智 之 持 備 皇 帝 之 以 以 上

月 同 氏



心 一 玉 也 の  
心 札 へ  
山 中 幸 方 山 幸 持 小 賣 見 世 也 少 之 為 全 板 仕 也  
松 丸 一 仕 也

為 全 重 之 序







花の  
 静かーとめん  
 ひろこの抱のぢり

ひろこの  
 静かーとめん  
 ひろこの抱のぢり  
 静かーとめん  
 ひろこの抱のぢり

ひろこの  
 静かーとめん  
 ひろこの抱のぢり

ひろこの  
 静かーとめん  
 ひろこの抱のぢり

ひろこの  
 静かーとめん  
 ひろこの抱のぢり

ひろこの  
 静かーとめん  
 ひろこの抱のぢり







ねえとて  
ひさびさ  
うらやま  
いふて  
あはれ  
これと  
さあ  
と

おんさんおんさん  
おんさんおんさん  
おんさんおんさん

おんさんおんさん  
おんさんおんさん  
おんさんおんさん



おんさん  
おんさん  
おんさん

おんさんおんさん  
おんさんおんさん  
おんさんおんさん

おんさんおんさん  
おんさんおんさん  
おんさんおんさん



大紋  
三つくさしまろ  
まことたのらじ



こんやのちりめんハ  
大いんとまろしく  
このせせとど  
中のてうれえん  
このまろむき  
ぬきせとせふちりめん  
ねごのあいらつて  
いとこまのちりめん  
まんの山ざり  
であらとまろむき  
あいなめのおき  
ぎいねのまの  
りごせめ小ぎ  
十でうのえ  
こりんあられの  
まろむき  
あららまろむき  
これまろむき

おはれとせせふき  
らむのつりよ  
よのちりめん  
らでせとてい  
のよいせ  
よえん

ここのまろむき  
くちりめん  
どあいらつて  
あいらつて  
ここのまろむき

月夜  
まろむき  
このまろむき  
のせせと  
せうご  
ちりめん



ここのまろむき  
あいらつて  
ここのまろむき











せんぞの法(ほう)のしるし  
 えん葉(えん)杜(た)方(か)解(かい)

せんぞのちやのわじ  
 こころはちやあさぬの  
 うせーがらあまから  
 ぬてけんごころの  
 きんぎやうがご  
 こころとあがた  
 けりふそめわけと  
 ちのくわさき  
 ぬていさき  
 けんのうせんま  
 るきまの人の  
 共ゆられてはひきふ  
 つててまきあき  
 これ百の口がすけい



せんぞのありてはちやさげふ  
 うせらぶがかりさめらさげ  
 まどめさるる

せんぞの  
 こころ

せんぞの  
 まき

せんぞのわじ  
 きんぎやうのしるし  
 ぬてふらひ  
 あんれごころ  
 きんぎやう  
 まき



せんぞの  
 あんれごころ  
 ひれとこれさるる  
 いまきめさるる





せめりんハ千二五  
 りろつてやまとい  
 けうろふのまれど  
 こわねがやんで  
 くるうらハわな  
 きかくのこんがま  
 のあましくあて  
 よるねまねは  
 わらまゝれは  
 ちんちんあま  
 のまふあま  
 こころ  
 かい

えんや  
 けうろふ  
 ちんちんあま  
 わらまゝれは  
 ちんちんあま  
 のまふあま



せいの  
 あまのうらた  
 ちんちん  
 ままのこんがま

せいのま  
 どのいせ  
 ちんちん  
 けうろふ  
 ちんちん  
 わのま  
 ちんちん  
 ちんちん

このあまの  
 うらた  
 ちんちん  
 ままのこんがま  
 ちんちん  
 ちんちん  
 ちんちん





ちやうど  
あまのめ  
おとこついで  
あれど  
おんや  
いけや  
けさ  
そよ

ついで  
あまのめ  
おとこついで  
あれど  
おんや  
いけや  
けさ  
そよ



三度めのかまきり  
うい  
おんや  
いけや  
けさ  
そよ

おんや  
いけや  
けさ  
そよ

おんや  
いけや  
けさ  
そよ

おんや  
いけや  
けさ  
そよ



七生  
 までの 謝おめさま  
 うちハ  
 大のちこ

七生うまでのうんがう  
 おぬいむきこりうせん  
 まのあつまき  
 のいふあつまき  
 らんやううあつまき  
 らんやういあつまき  
 小すれはうりてあつ  
 てあつがする

うねこのわさう  
 ちてがまうんてあつ  
 うしやう



まのあつまき  
 のいふあつまき  
 らんやううあつまき  
 らんやういあつまき  
 小すれはうりてあつ  
 てあつがする

まの  
 の 梅葉  
 そまうてめ

なりのあつまき  
 ちやハ上あつまき  
 のいふあつまき  
 のちやハ上あつまき  
 のいふあつまき  
 のちやハ上あつまき  
 のいふあつまき

あつまき  
 のいふあつまき  
 のちやハ上あつまき  
 のいふあつまき  
 のちやハ上あつまき  
 のいふあつまき



Ising Sangai







あんなに  
二十人  
いそいそと  
いそいそと  
あつてい  
ま

あんなに  
いそいそと  
いそいそと  
あつてい  
ま



あんなに  
いそいそと  
いそいそと  
あつてい  
ま

あんなに  
いそいそと  
いそいそと  
あつてい  
ま

あんなに  
いそいそと  
いそいそと  
あつてい  
ま



あんなに  
いそいそと  
いそいそと  
あつてい  
ま

あんなに  
いそいそと  
いそいそと  
あつてい  
ま



あんなに  
いそいそと  
いそいそと  
あつてい  
ま

あんなに  
いそいそと  
いそいそと  
あつてい  
ま



おいそだ  
 のそら  
 めいまる  
 らろであ  
 ろごえを  
 人のあを  
 早あんけ  
 ちうとハ  
 よいとの  
 ふとひて  
 やいあて  
 これあん  
 げんのあ  
 ひけりの  
 とこえ



おいそだ  
 のそら  
 めいまる  
 らろであ  
 ろごえを  
 人のあを  
 早あんけ  
 ちうとハ  
 よいとの  
 ふとひて  
 やいあて  
 これあん  
 げんのあ  
 ひけりの  
 とこえ

おいそだ  
 のそら  
 めいまる  
 らろであ  
 ろごえを  
 人のあを  
 早あんけ  
 ちうとハ  
 よいとの  
 ふとひて  
 やいあて  
 これあん  
 げんのあ  
 ひけりの  
 とこえ

おいそだ  
 のそら  
 めいまる  
 らろであ  
 ろごえを  
 人のあを  
 早あんけ  
 ちうとハ  
 よいとの  
 ふとひて  
 やいあて  
 これあん  
 げんのあ  
 ひけりの  
 とこえ



おいそだ  
 のそら  
 めいまる  
 らろであ  
 ろごえを  
 人のあを  
 早あんけ  
 ちうとハ  
 よいとの  
 ふとひて  
 やいあて  
 これあん  
 げんのあ  
 ひけりの  
 とこえ





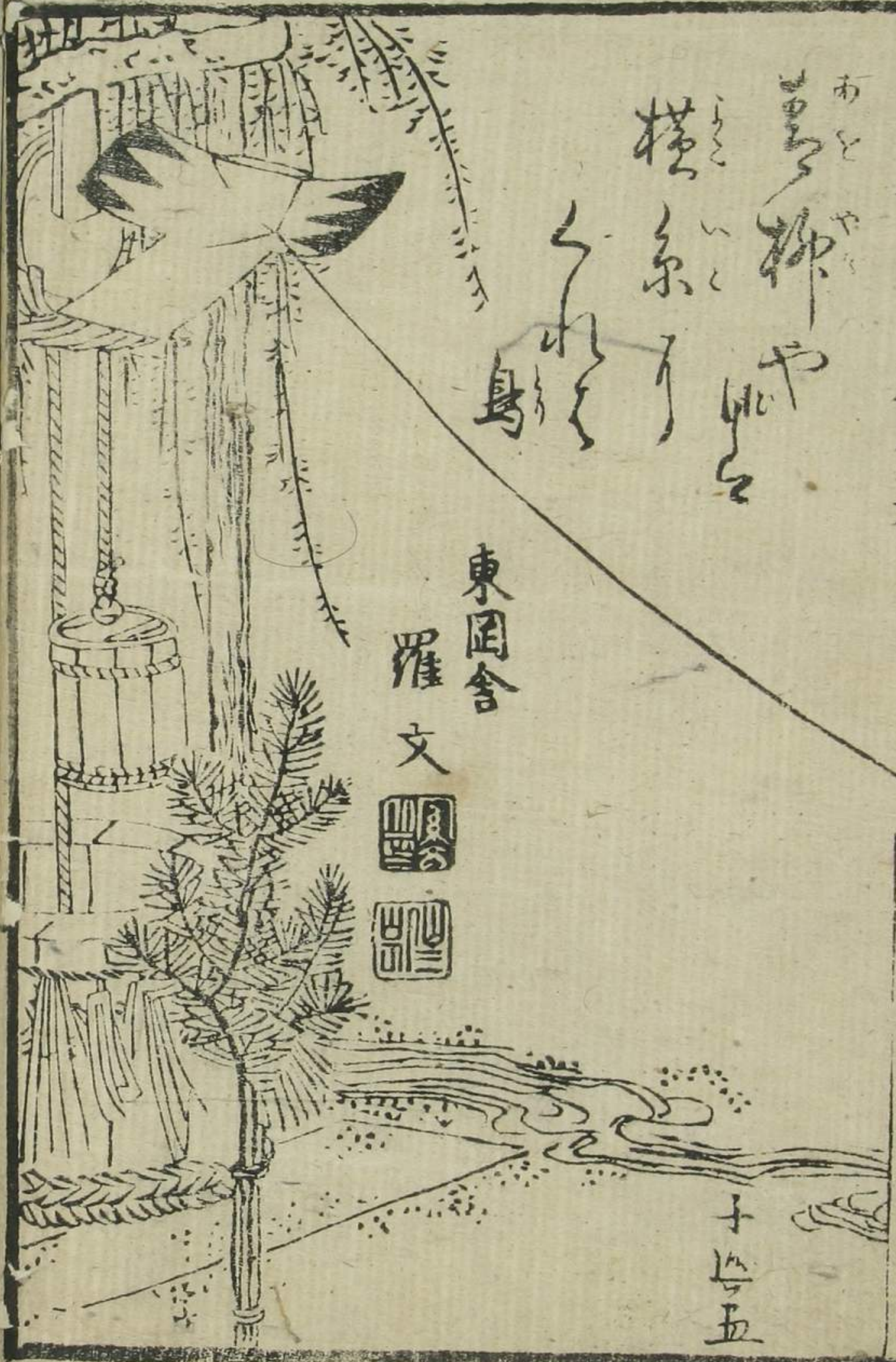


題馬琴新作稗史

あや  
ま  
柳  
や  
横  
糸  
了  
く  
水  
鳥

曲亭馬琴作

十四五



東園舎

羅文



山東窟主人京傳子著

忠臣水滸傳前編

全部五卷

此本太平記と全意と水滸傳の趣と也唐土の  
小説なるはく假名本忠臣蔵の十段と十四段  
功とりの忠臣蔵孝子義兵男貞時の子業と能  
挿大あうりしりるん職言といふとてん  
懲ふたやも至極にりるのまじし物多り往く画と  
くし国字と以て記しん兒女もりやとてし

繪本二十四巻 全部五冊 狂言法語 西園信長入

狂歌言集の次第 全巻 狂言法語 西園信長入



